

高齢者が住み慣れた地域で安心して  
生き生きと暮らせるまちを目指して

# 高齢者が輝く 地域が輝く



椿会



亀山市婦人会連絡協議会

市内の65歳以上の人は約12,500人で、人口の約25%を占めています。10年後の平成37年には団塊世代の人が75歳以上となり、これまでの医療・介護・福祉制度での対応が難しくなると予想されています。

そんななか、それぞれの地域で高齢者が元気に安心して暮らし続けられるまちづくりが求められています。今回は、地域づくりの担い手として、生き生きと活動されている2つの団体を紹介します。

## 花のように明るい笑顔が広がる地域づくり

つばき

### 椿会

椿世町の老人クラブ「椿会」。56歳から106歳までの幅広い年齢の会員68人が、花壇づくり、グラウンドゴルフ、地区住民の交流会などに活発に取り組み、昨年度は三重県老人クラブ連合会の会長から表彰を受けました。



### 花も人と同じ、優しくいたわることが秘訣

毎年開催される亀山市老人クラブ連合会(亀老連)の花壇コンクール。椿会は、過去最多の最優秀賞を受賞しています。花壇づくりのコツは、「人と同じで優しくいたわり目をかけること」と打田会長夫妻。担当者が毎日朝夕の水やり、害虫駆除、花から摘みなどを行い、ほかの会員も通りがければ作業に参加。美しい花壇は、チームワークの賜物です。



### 「にぎやかですやる」 活動中は笑い声が絶えません

チームワークは、グラウンドゴルフでも発揮。亀老連のグラウンドゴルフ大会で優勝したことも。練習場は、初めて参加する人も、以前からいるメンバーのようにみんなと楽しめる、そんな和気あいあいとした雰囲気です。

### 「最高齢会員は106歳。その人を目指してまだまだ頑張らんと！」

自治会や子ども会などと「ふれあい交流会」を共催。マジックや太鼓演奏などをみんなで楽しむことで、地元を大切に思う気持ちが世代を超えて伝わります。最高齢の会員を追い越せと言わんばかりに、笑顔あふれる椿会の活動は、これからも楽しみです。



## 地域を支える女性のチカラ

### 亀山市婦人会連絡協議会

長年、地域に根ざした活動を展開している婦人会。

会員230人が、各地域で女性の目線で地域の活性化を図っていくとともに、暮らしの安全・安心の見地からさまざまな活動に取り組んでいます。地域の助け合いが求められている今日、活躍が期待されています。

亀山  
地区

#### 独居高齢者への愛の声掛け「訪問してもらうのを待ったんや」

春と秋、80歳以上の1人暮らし高齢者宅へ、ちらし寿しや味ご飯などを持って訪問。昔懐かしいどうかんもちなどのおやつも添えます。会話ははずみ、高齢者の笑顔があふれます。会員にとっても、やりがいや励みになっています。

地域の敬老会では、80歳以上の人に記念品を配付。「喜んでもらえるのがうれしい」と会長の久山さん。毎年長寿を願ってお祝いをしています。



白川  
地区

#### 子どもや地域に寄りそう温かい活動

高齢者の会員が増える中、地域の花壇整備や敬老会の記念品準備など、精力的に活動中です。白川小学校では、児童への手作り防災頭巾のプレゼントや、毎年開催の親子ふれあいデーでは、おにぎりや木の芽の天ぷらなどを参加者にふるまっています。

「あんなことやこんなこともできたらいいな」と、会長の佐野さんの頭の中にはアイデアがいっぱい。今後の活躍が楽しみです。

野登  
地区

#### まちづくり協議会や自治会などの一員としても活躍

「会員は、自治会の婦人部、まちづくり協議会や福祉委員会の役員などとしても活躍中」と会長の伊藤さん。地域の三世代交流や児童らの見守り隊など、さまざまな活動に関わっています。

敬老会では、婦人教室で作った手芸作品を飾ったり、地域の催しでは、大正琴の演奏などで盛り上げ役も。地域の暮らしのあちらこちらに溶け込んだ存在となっています。



川崎  
地区

#### 「人が気軽に集まれる場所をつくりたい」

「東日本大震災を経験した今、地域の交流や活性化が大切。婦人会の特性を活かした活動ができれば」と、会長の宮崎さん。

「近くに近所の人が寄る機会があったら」との声もあり、会員が手芸を楽しんでいる場を拡大し、地域の人が楽しく話ができる交流の場の実現を目指しています。

### 終わりに

超高齢社会では、高齢者の見守りや生活支援など、高齢者の在宅生活を社会全体で支えることが求められます。市は、自治会、まちづくり協議会、サロンなどの地域を支える皆さんとともに、高齢者が安心して地域に住み続けられるまちの実現に取り組んでいきます。

問合せ先

健康福祉部高齢障がい支援室  
(あいあい ☎84-3313)